

音楽情報科学研究会のページ

SIGMUS Home Page <http://www.etl.go.jp/~sigmus/>

第44回音楽情報科学研究会開催のご案内

日程： 2002年(平成14年)2月15日(金), 16日(土)
会場： 和歌山大学システム工学部 (〒640-8510 和歌山市栄谷930番地)
照会先： 片寄晴弘 (和歌山大学 システム工学部 デザイン情報学科)
e-mail: katayose@sys.wakayama-u.ac.jp

*照会はできるだけ email でお願いします。

備考： 日本音響学会音楽音響研究会と共催

詳細については、以下の URL をご覧ください。

<http://media.sys.wakayama-u.ac.jp/~katayose/sigmus44.html>

多数のご参加をお待ち申し上げます。

第45回音楽情報科学研究会開催と研究発表募集のご案内

日程： 2002年(平成14年)5月18日(土), 19日(日)
会場： 図書館情報大学メディアホール (つくば市春日1-2)
発表申込締切： 2002年2月末(予定)
発表申込・照会先： 平賀 譲 (図書館情報大学)
e-mail: hiraga@ulis.ac.jp
0298-59-1395 (tel.) 0298-59-1093 (fax.)
〒305-8550 つくば市春日1-2 図書館情報大学 平賀譲宛

*申し込み、照会はできるだけ email でお願いします。

備考： 音楽知覚認知学会と共催

詳細については研究会 WWW ページ掲載予定

演奏生成システムによるピアノコンクール「蓮根」に関するお知らせ

「蓮根」は、performance RENDering piano CONcours に由来する演奏生成システムによる一連のピアノコンクールを指す愛称です。蓮根実行委員会では、国際会議、シンポジウム、研究会の併設イベントやワークショップの場をお借りして蓮根を開催することいたしました。現在、以下のように蓮根を実施する予定です。

- 2002年7月6日(土) : ICAD2002 (<http://www.icad.org/>) の併設ワークショップ。演奏生成システムの発表とデモンストレーション。
- 2002年9月 : 電子情報通信学会 ISS・情報処理学会全国大会共催大会 (FIT) において演奏生成システムのデモンストレーション。
- 2003年8月 : IJCAI03 (<http://www.ijcai.org/>) のワークショップとして演奏生成システムによるピアノコンクール。

以後毎年、蓮根を行う予定です。

ICAD2002の併設ワークショップとしての蓮根の応募方法などについては蓮根のホームページをご覧ください。
<http://shouchan.ei.tuat.ac.jp/~rencon/>

賞も設ける予定ですので、たくさんの方からのご応募お待ちしております。

SIGMUS 第42回 研究発表会・チュートリアル報告

2001年10月26日・27日 大川センター (京阪奈)

チュートリアル「サウンドプログラミング入門II」報告

報告者：引地孝文 (NTT)

10月25日(木)、Windows サウンドプログラミングに関するチュートリアルが開催された。この企画は今年5月に開催された第一回目の企画が好評だったことを受けてほぼ同一内容で行われたものである。内容は、Windows 上でのMIDI処理技術及びサウンド処理技術を、基本的な事項から丁寧に、また事例をあげながらわかりやすく解説するというものであった。これらの技術は、音楽ソフトを製作する際必須の技術である。参加者は大学教授、企業の技術者、学生など多岐に渡り、これらの技術が広く必要とされていることが感じられた。また講義後は活発な質疑が行われ、参加者の熱意が感じられた。アンケート結果もおおむね好評であり、「具体的なアプリケーションのプログラミング技法について知りたい」「Linux 上でのサウンドプログラミングについて知りたい」「全く素人なので心配していたが大変分かりやすく、自分でいろいろと作成する気持ちになった。」などの感想が寄せられた。また、講師による関連書籍が直販用に10冊用意され完売した。

「けいはんなメディアコンサート2001」報告

報告者：小坂直敏 (NTT)

10月26日(金)にけいはんなプラザ内イベントホール2で標記コンサートが開催された。これは、この地の学術、研究の発展と文化の創造および交流をミッションとした関西文化学術研究都市推進機構が主催し、当研究会とNTTコミュニケーション科学基礎研究所が共催した。企画は、一年前から報告者が中村滋延氏と上原和夫氏と三者で関西圏でのコンピュータ音楽の催しを立ち上げるための議論から始まった。このコンサートを2000年春の片寄晴弘氏がATRで始めた勉強会の延長上に位置づけ、コンサートはシンポジウム、インストールなどの複合企画のひとつという形を模索し、音情研研究会との同時開催とした。コンサートの特徴として、研究技術成果を反映した作品の紹介、けいはんなの地を中心にした作品紹介、映像・舞踊・パフォーマンスを取り入れた総合的芸術としてのコンピュータ音楽の実演、各作品をインタビュー形式で解説すること、などがあげられる。

当日は6:00PMの開演ということで、京都市内、大阪市内から来るにはやや早い開始時刻、また、研究会出席者からは懇親会とのバッティングなど、参加者数が少ないのでは、との懸念もあったが、約200人と主催側の予想以

上の聴衆であり盛況であった。聴衆は研究会参加者のほかにはATRなどけいはんな地区の研究者、地域の方々であった。また、新聞報道も数件、テレビは翌朝のNHKニュースで2回採り上げられるなど、好意的に扱ってもらった。

上原作品は舞踊、映像、と民族楽器ディジュリデゥと四弦琵琶による演奏が効果的であった。

中村作品は、自ら素材をカンボジアから撮影して処理した映像と、独奏フルートの新鮮な響きとが調和して視覚的要素を作品の重要な柱と置く氏の主張の一端が見られた。

古川作品はいくつかの映像シーンを用意しておき、各シーンで作曲者がグラフィクス上のオブジェクトの動き(例えば振動、衝突など)を制御する。同時にこれらの動作が実時間で音源を駆動して、動作と対応の良い演奏音となる。Voiceの柱本はこの演奏音とのアンサンブルを行うが、全部即興であったそうで驚かされた。CGが可愛らしく「おとぎ話」ということで子供にも人気があったようだ。

報告者はシングルメディア作品として、チェロとコンピュータのための作品「掛鏡」を発表した。作品内でサウンドハイブリッド技術を用いており、作品上演後簡単なシステムデモとしてこの音を紹介した。

間瀬作品は、インタラクティブ万華鏡という趣向で、踊り手の映像を実時間で処理しスクリーン上に万華鏡と同様の対象図形を表示するものであった。これまでインストールなどで発表してきたそうだが、今回はステージ作品としてストーリー性を持たせたものであった。作品がわかりやすいということで多くの人に好評であった。なお、翌日のニュースで取り上げられたのは古川作品と間瀬作品で、テレビというメディアの性質上、映像がわかりやすいものが必要条件であることを改めて認識した。

なお、これまでの音情研では、研究会とコンサートを同一日に開催することはインターカレッジが代表的な例であるように、一般的であった。しかし、今回企画者として通常のことと考えて設定した研究会とコンサートの同一日開催は、音楽家と研究者の交流、という視点からは次第にうまく機能しないことが指摘され、今後の日程の組み方に対する反省点としてあげられた。

編集後記

西本一志 (北陸先端大/科技园さきがけ研究 21)

今回から、SIGMUSのページの掲載内容が変更となりました。従来は前回の研究会での発表に対する質疑応答の記録が主な内容でしたが、今回からは必ずしも質疑応答記録は掲載しないこととなりました。